

## 「コモンズの共創③ コモンズの悲劇あるいは幸せ」

### ■これまでの確認

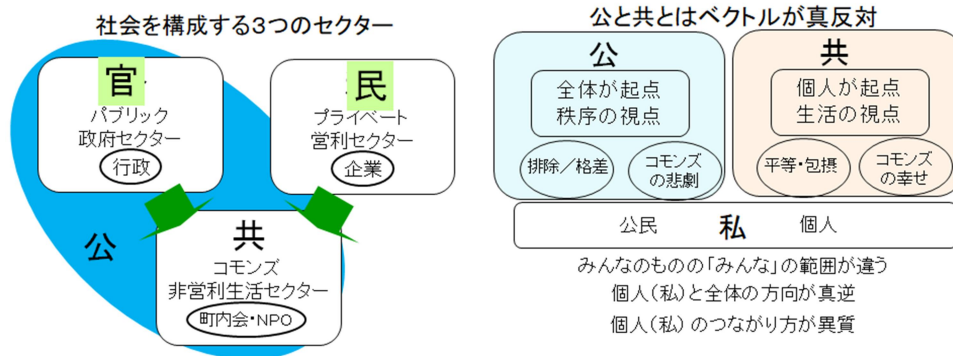
#### 〔第1回〕公と共の違いを考える

- ・ 私が考えているコモンズは、「みんなのもの」という意味ですが、いわゆる「公」とは真反対なベクトルを持つ「共」です。ですから、そもそも「公共」という言葉は実態を覆い隠す言葉のような気がしています。
- ・ 日本における「公」は、パブリックというよりも、むしろ「官」（お上）に近く、「公共」という言葉に含意されている「みんなのもの」という「みんな」も「民」（臣民）というニュアンスが強く、主体性を持った個人というよりも、「官から捉えた民」という感覚が強い。そこに主体性を持った「個人」はあまり感じられない。
- ・ 日本国憲法でも、主権者とされる個人の権利や自由よりも、公共の福祉が優先されている。しかも自民党の憲法改正案では、「公共の福祉」が「公益および公の秩序」に置き換えられていることに示唆されるように、「公共」も「公」に近い概念である。
- ・ 社会を捉える場合、全体を起点にするか個人を起点にするかというパラダイム（発想の枠組み）でまったく違ったものになる。これまでは、全体を起点に社会を捉えて個人を考えてきたが、起点を逆転させて、個人を起点に社会を考えていくべきではないか。
- ・ 個人を社会（みんな）の構成員と位置づけるか、社会（みんな）を複数の個人が生み出し育てるシステムと位置づけるか。つまり、個人と社会のいずれを主役と位置づけるかによって、個人の生き方も社会の位置づけもかわってくる。
- ・ コモンズには、人間だけではなく、他の生命体も非生命体もすべて、含まれる。というか、それらは個々に存在するのではなく、ホロニックな関係で存在するため、一体的(包括的)にとらえることになる。そのため「共創」と表現している。
- ・ ただ、あくまでも基本は「個人」（個の存在）であり、それぞれの関係は「コンヴィヴィアル（自立共生）」な主体性を認め合う関係である。

#### 〔第2回〕「公」の〈みんな〉と「共」の〈みんな〉

- ・ 「公」の〈みんな〉は、個人は主役ではなく、むしろ構成要素でしかない。たとえば、国民（民）は国家（みんな）が戦争を起こせば、戦力として戦場に送りだされる。平時においても、生産者や消費者として存在している。
- ・ それに対して、「共」の〈みんな〉は、個人が主役で、その相互支え合いで社会（みんな）が生まれてくる。生活者としての個人が、自らが生活しやすいようにコミュニティやアソシエーションを生み出していく。その先に、「国家」があるとしても、公としての国家と共としての国家は、組織原理も組織形態も、全く違うものになるはず。
- ・ ここで「共のみんな」と言っているのが、この連続サロンでの「コモンズ」。言い方を変えれば、〈みんな〉の捉え方を変えようということ。つまり、「個人」を主役にした〈みんな〉を育てていくということ。
- ・ 公と共とは、個人と組織の関係において方向性が真逆なのに、その全く異質な言葉が、つながって「公共」という言葉をつくっているため、〈みんな〉が個人を隷属させてしまう。そこに抗っていかないと、コモンズは回復しない。
- ・ たとえば、よく使われる「公共の福祉」というのは、往々にして「公の福祉」、つまり全体の秩序を意味し、その構成要素である個人の都合などは考えないにもかかわらず、「みんなのため」だから仕方がないと思わせてしまう。ここから、いわゆる「コラテラル・ダメージ（やむを得ない犠牲）」も正当化されてしまう。その最たるものが、「お国のために」敵を殺傷しようという、戦争行為の正当化。

- ・ 「公」の〈みんな〉の視座で考えるか、「共」の〈みんな〉の視座で考えるかで、全く世界は変わってくることを、私たちはもっと意識しなければならない。「公益」と「共益」とも全く違う。そこに気をつけないと、おかしい福祉国家が出来上がってしまう。「公の常識」と「共の常識」は全く違う（たとえば中国観）。同じように、「公の制度」と「共の制度」も違う（たとえば請願権制度）。「安全保障論」も、公の安全か共の安全かで、真逆にもなりうる。



■今回の課題：コモンスの悲劇は本当か。問題は何なのか。

〔コモンスの悲劇〕理論

共同所有資源の利用者は、個人的利益の極大化という経済目的にかりたてられ、資源を過剰開発して、結局、共同所有資源を失う結果になる。

→だから「私有」の範囲を広げていこう（汎市場化・汎商品化）。

○スケールメリットとスケールデメリット

「もし2人の人間が一致して力を合わせるなら、2人は単独である場合よりも多くの力能をもち、従って自然に対してもより多くの権利をもつ」（スピノザ）。

- \* 経済的に貧しいので結婚できないという話をどう考えるか
- \* 市町村合併は誰にとってメリットがあったのか（起点を変えると評価は反転）

○「フリーライダー（ただ乗りする人）のジレンマ」

なぜフリーライダーは出てくるのか。

- \* コモンズと個体をどう考えるかで、利己と利他はどう変わるのか。
- \* 時間軸を変えると「利己」の意味も変わってくる（ブーメラン・デメリット）

○コモンスが悲劇に終わるか幸せをもたらすかの違いは何か

- \* ソーシャル・キャピタル（社会関係資本：ゆるやかな信頼関係）  
「コモンスの悲劇」とは、コモンスが存在しない悲劇
- \* 自己組織的な協治ルール（「コモンスの統治」）
- \* 村落共同体とコモンスの違い（共同体と個人との関係）
- \* 狩猟採集文化はコモンスを浪費するのか。農耕文化はコモンスを育てるのか。

○コモンスとは何か。

- \* 入会地の主役は、自然（土地）なのか、人のつながり（組合）なのか。